

## 議 事 録

会議名	寒川町史編集委員会		
日 時	令和7年1月17日(金)13:30～14:30	開催形態	公開
場 所	寒川町役場議会第1会議室		
出席者	委員：内海委員、松岡委員 事務局：伊藤館長、平尾主査、高木主任主事 傍聴者：なし		
議 題	(1)委員長選出 (2)議事録承認委員の選出 (3)文書館運営審議会委員の選出		
決定事項	(1)委員長に内海委員が選出された。 (2)議事録承認委員に松岡委員が選出された。 (3)町史編集委員会から選出する文書館運営審議会委員は、内海委員が引き続き務めることになった。		
議 事	<b>1 委嘱状交付</b> <b>2 町長あいさつ</b> <b>3 委員長選出</b> ・本日の進行は事務局にお任せいただくことを、冒頭で各委員に了承していただいた。 ・事務局より、編集委員会での議論の経過などをご存じの内海委員にお願いすることを提案し、互選の結果、内海委員が委員長に選出された。 <b>4 議事録承認委員の選出</b> ・互選の結果、松岡委員が選出された。 <b>5 議事</b> <b>(1) 寒川文書館運営審議会委員の選出について</b> (事務局) 現在の任期である令和7年6月27日までの残任期間と令和7年6月からの新任期について、務めていただく方を決めたい。 (内海委員) 木村勇委員から引き継ぎ、何期か務めさせていただいた。何人かいる審議会委員のみなさんは、町史刊行物の中身はあまりご存じないので、町史		

編集委員から選出される審議会委員の役割は重要である。いずれ松岡委員にバトタッチしていきたいが、当面は自分が継続して務めることにしたい。

- ・互選の結果、内海委員長が選出された。

## 6 報告

### (1) 令和6年度の刊行物について

資料1-1にもとづき、令和6年度末に刊行予定の『寒川町史研究』第35号について、構成案および進捗状況について事務局より報告した。前期の委員に構成案を示すことが遅れたことを詫び、次年度は、早めに構成案を検討してもらうため、委員会の回数を増やすなど改善策を検討している旨を伝えた。また、資料1-2で、これまで刊行してきた町史研究の記事一覧を示し、最近は論考が少なくなり、講演録や事業記録などの占める割合が高くなっている現状を報告した。これに対し、次のような質疑があった。

(委員) 第35号に展示記録を載せるが、どのような展示だったのか。

(事務局) 小学校の社会科の副読本を使って、子どもたちが地域をどのように学んでいるのかを、大人に知ってもらおうという展示である。副読本の作成過程、同書で取り上げる「年中行事」「史跡」の内容を掘り下げて紹介した。とりわけ「史跡」は学区ごとに紹介し、地域を身近に感じてもらうよう務めた。

(委員) 展示に小学生も来たのか。

(事務局) 学校ごとに授業の一環で見学に来ることはなかった。各家庭にPRするため、小中学校の児童・生徒を通じて保護者宛のチラシを配布したが、残念ながらあまり効果はみられなかった。

(委員) 資料紹介の資料が東京大学図書館の鷗外文庫にあるとのこと。どのような資料か。

(事務局) 寒川の豪農が江戸に進出する足がかりを作ったのが町屋敷経営だが、所有していた一筆の土地について、明治初年までの所有の履歴がわかる資料の写しが一冊にまとめられたものである。

(委員) なぜ森鷗外がこの資料を持っていたのか。

(事務局) 鷗外は和漢の書籍や洋書など幅広く蔵書をもっており、関東大震災で壊滅した東京大学図書館の復興のため遺族が寄贈したのだが、その中にたまたま入っていたということで、特に鷗外が寒川と結びつきを持っていたわけではない。

(委員) 講演録も資料紹介も、この表題だけでは寒川との関連がわかりにくい。サブタイトルなどで工夫してほしい。

(事務局) 資料紹介のほうは執筆者と相談し検討してみたい。講演録のほうは、すでにこのタイトルで講演会を実施しているので、タイトルを変えることは望ま

しくないと考える。

(委員) 講演のときのタイトルと掲載するタイトルが異なっても構わないと思う。寒川のことであるとサブタイトルからわかるなら、そのほうが良い。また、現在の案では本題もサブタイトルもどちらも抽象的なものになってしまっている。具体性のあるように反映してほしい。具体的な地名などが入っていたほうが、町民の皆さんも手にとりやすいのではないかと。ぜひ講演した先生に打診してほしい。

(事務局) 打診はする。

(委員) 町史研究の編集の進め方として、もう差し替えのできないような段階で会議が行われるということが、何年も繰り返されてきた。編集委員会の開催もいつの間にか年に1回になってしまい、複数回開くことを要望し続けてきたが、実現できていない。

(事務局) 会議が年1回になってしまったのは緊急財政対策の影響だが、先ほども説明したとおり、次年度は2回開催することを検討している。これまでのように追認を求めるような会議の運営にならないよう努める。

(委員) 複数回の会議ができることは大いに評価したい。今後どのようなものを出していくかも、これから議論していく必要がある。

## (2) 令和6年度の資料の受け入れ状況について

資料2にもとづき、令和6年4月から12月までに寄贈を受けた資料群10件の概要を説明したところ、次のような質疑があった。

(委員) 寄贈者は古くから寒川に居住した家の人が多いのか、それとも戦後移り住んできた家の人が多いのか。

(事務局) 古くから居住した家の人の方が多い。

(委員) 相模海軍工廠の反物とはどのようなものか。

(事務局) 焼夷弾を落とすためのパラシュートを製造しており、戦後その材料の払下げをうけたと聞いている。

(委員) 写真が多く寄贈されているが、撮影機はどうか。このカメラでこの写真が撮られた、というようなことがわかれば、展示には有効である。同様に大工の記録が寄贈されているが、併せて大工道具はなかったのか。

(事務局) カメラの寄贈は受けていない。大工の資料についても寄贈を受けていない。

(委員) 寄贈の呼びかけは積極的に行っているのか。例年どのぐらいの文書群を受け入れているのか。

(事務局) 積極的な呼びかけは行っていない。例年、今年度と同程度の件数の受け入れがある。

	<p>(委員) 収蔵庫は文書館内だけか。</p> <p>(事務局) 外部の倉庫を借りるようなことはしていない。</p> <p><b>7 その他</b></p> <p>○次回は令和7年6月ないし7月に開催したいと考えている。事前に日程調整を行いたい。</p>
資料	<p>参考資料1 寒川町史編集委員会規則</p> <p>参考資料2 寒川文書館条例ほか例規</p> <p>資料1-1 令和6年度の刊行物について</p> <p>資料1-2 町史研究目次一覧</p> <p>資料2 資料の受け入れ状況</p>
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	<p>松 岡 俊</p> <p>(令和7年2月18日確定)</p>